

「平成 30 年度群馬県キャリア教育研究大会」
～縦割り班活動を生かした「後閑子ども会議」を通して～

安中市立後閑小学校 高橋 浩美

1 はじめに

本校は全児童 81 名の小規模校である。1 年生から 6 年生で編成される縦割り班を生かして、年間を通して朝活動や児童会活動に取り組んでいる。

特に年 2 回行われる「後閑子ども会議」では児童を主体とした話し合いが行われる。この取組は、本主題「子どものよさや可能性を伸ばす特別活動」およびキャリア教育としての自己実現の形成へとつながると考えた。

2 実践の概要

(1) 「後閑子ども会議」について

<ねらい>

全校児童が、自分たちの学校の課題について縦割り班で話し合うことにより、より良い学校・学級づくりの手立てや工夫について考え、実行しようとする意欲を育む。

<活動計画>

- ・年 2 回実施 第 1 回 1 学期（6 月）
第 2 回 3 学期（2 月）
- ・活動時間 朝活動から 1 校時（時数：児童会活動としてカウント）

(2) 活動内容（小学校学習指導要領 解説 特別活動編 P 86：参考）

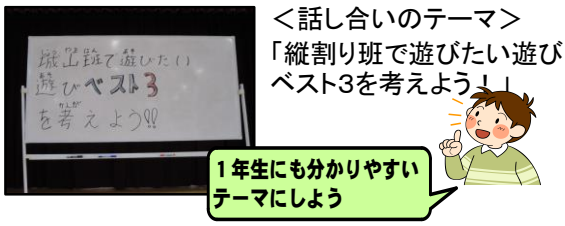
- <学習過程>
- ①問題の発見、議題の設定
 - ②解決に向けての話し合い
 - ③解決方法の決定
 - ④決めたことの実践
 - ⑤振り返り

<学習過程>
①問題の発見、議題の設定 → 児童会による話し合い
全校へのアンケート

課題：もっと学年を超えて遊べるようにしたい

<話し合いのテーマ>
「縦割り班で遊びたい遊び
ベスト3を考えよう！」

1年生にも分かりやすい
テーマにしよう



児童会での話し合いの結果「もっと学年を超えて遊べるようにしたい」という意見が出た。そして今回のテーマが決定した。

<話し合いのポイント：全校>


- ・一人一回は自分の考えを言おう！
- ・なぜその遊びがしたいか、わけも伝えよう！
- ・友達の話は最後まで静かに聞こう！

<6年生：国語「単元名：話し合ってまとめよう」>

全員が意見を言えるためには
どうしたら良いかな。

低学年も楽しめる遊びが良いね。

国語での学びを
実践につなげる



発達段階に合わせた話し合いができるようポイントを確認した。話し合いの中心となる 6 年生は、国語での学びを実践に生かした。

<学習過程>
②解決に向けての話し合い

→ **後閑小子ども会議①** ☆児童会から話し合いのテーマ(議題)を提案する。



「縦割り班で遊びたい遊びベスト3を考えよう！」



後閑小の合い言葉から誕生した「ぼかぼかマン、きらきらマン、にこにこマン」が登場し、話し合いの議題を全校に提案した。

→ **後閑小子ども会議②**

☆縦割り班ごとに話し合いを行う。





発表用ホワイトボードに意見をまとめる

話し合いのポイントを確認し縦割り班ごとの話し合いを行った。班長を中心にホワイトボードに出た意見をまとめた。


<学習過程>
③解決方法の決定

→ **後閑小子ども会議③**

☆班の意見を発表し、全校で共有する。



校長先生に話し合いの報告とお願い



縦割り班で遊べる時間を作って下さい。

班ごとに出的意見を全校で共有した。班のベスト3の遊びを実践できるように、この会議の場で、直接校長先生にお願いした。

<学習過程>
④決めたことの実践 → 7月 朝活動 第1回城山集会

☆班で決めた遊びを朝活動で行う。



アウトにするぞ!(ドッジボール)



じゃんけんぽん!(へびじゃんけん)

班で決めた遊びは朝活動で行うことになった。月に1回活動できるよう教務主任を中心に年間の計画の見直しを行った。

<学習過程>
⑤振り返り → 会議後の振り返り 児童会役員の振り返り 各学年での振り返り

☆会議の最後に、振り返りを発表する。





それぞれの活動後、振り返りを行った。後閑小子ども会議後も、各学年から自分の感想を発表する場を設定した。

3 まとめ

- ・小規模校の良さを生かした活動に取り組めた。
- ・異年齢集団による交流の活性化を図れた。
- ・児童主体の活動(計画、運営、話し合い、実践)を行うことで、児童の充実感、達成感とともに次の活動への意欲につなげることができた。
- ・特別活動を要として、キャリア教育の充実にも、さらに取り組んでいきたい。